

[8] えびの市小体連

I 年間事業

期 日	事 業 名	主 な 内 容	会 場
5月19日(火)	第1回理事会	本年度の活動確認、役割分担、研究内容等	加久藤小学校
6月10日(火)	第2回理事会	研究授業 ボール運動ネット型 真幸小3年「プレルボール」 授業事後研究 研究協議	真幸小学校
6月19日(金)	第3回理事会	研究内容検討 水泳大会について	加久藤小学校
7月27日(月)	大会前日準備	水泳大会前日準備	飯野小学校
7月28日(火)	水泳大会	水泳大会運営、記録整理、大会反省	飯野小学校
9月26日(月)	第4回理事会	陸上大会打合せ、県学体研発表内容検討	加久藤小学校
10月26日(月)	大会前日準備	陸上大会前日準備	飯野小学校
10月27日(火)	陸上大会	陸上大会運営、記録整理、研究内容検討	飯野小学校
1月29日(金)	第6回理事会	バレー実技研修会、授業研究	加久藤小学校
2月18日(木)	第7回理事会	年間活動のまとめ、次年度の方向検討	加久藤小学校

II 事業部のあゆみ

1 水泳大会

- (1) 大会名 平成27年度えびの市小学校水泳大会
- (2) 実施日 平成27年7月28日(火)
- (3) 会場 えびの市立飯野小学校プール
- (4) 出場者 えびの市内各小学校5、6年生代表児童
- (5) 実施種目 ・25m(自由形・平泳ぎ) ・50m(自由形・平泳ぎ)
・200mリレー(学年別・男女別)
- (6) 反省
 - コースを学校ごとに固定して名簿作成、大会運営をスムーズに進めるようにした。
 - 体育主任の入れ替わりがあった場合でも、スムーズに運営ができるように運営の
手順と分担を明確にしておき、データも共有した。
 - 大会の様子や記録を伝える「えびの市小学校体育通信(元気っこ)」をえびの市
小学校PTA全体に配布できた。
 - 元スイミングスクール講師による模範泳法を取り入れ、児童が学ぶ機会も設けた。

2 陸上大会

- (1) 大会名 平成27年度えびの市小学校陸上大会
- (2) 実施日 平成27年10月27日(火)
- (3) 会場 えびの市立飯野小学校運動場
- (4) 出場者 えびの市内各小学校5、6年生児童
- (5) 実施種目 ○ 一般種目 ・100m走 ・50mハードル走
○ 選抜種目 ・長距離走(男子1000m、女子800m)
・ソフトボール投げ・400mリレー
- (6) 反省
 - 児童搬送のバス、駐車場借用の手配などを早めに行う。
 - 天候が悪化が予想されるため、午前中に午後の競技も取り入れたが順調に行えた。
フィールド競技の進行は理事会メンバーが携わってに運営する必要がある。
 - テント設営、片付け等会場校に多大な協力をしていただいた。
 - 過去の記録があいまいなため、新年度より児童名不祥の競技は新記録を取り入れ
る。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題

運動の楽しさに触れ、自ら身体能力を身に付けようとする児童の育成
～「できる・楽しい」を実感させるボール運動の指導方法の工夫を通して～

2 主題設定の理由

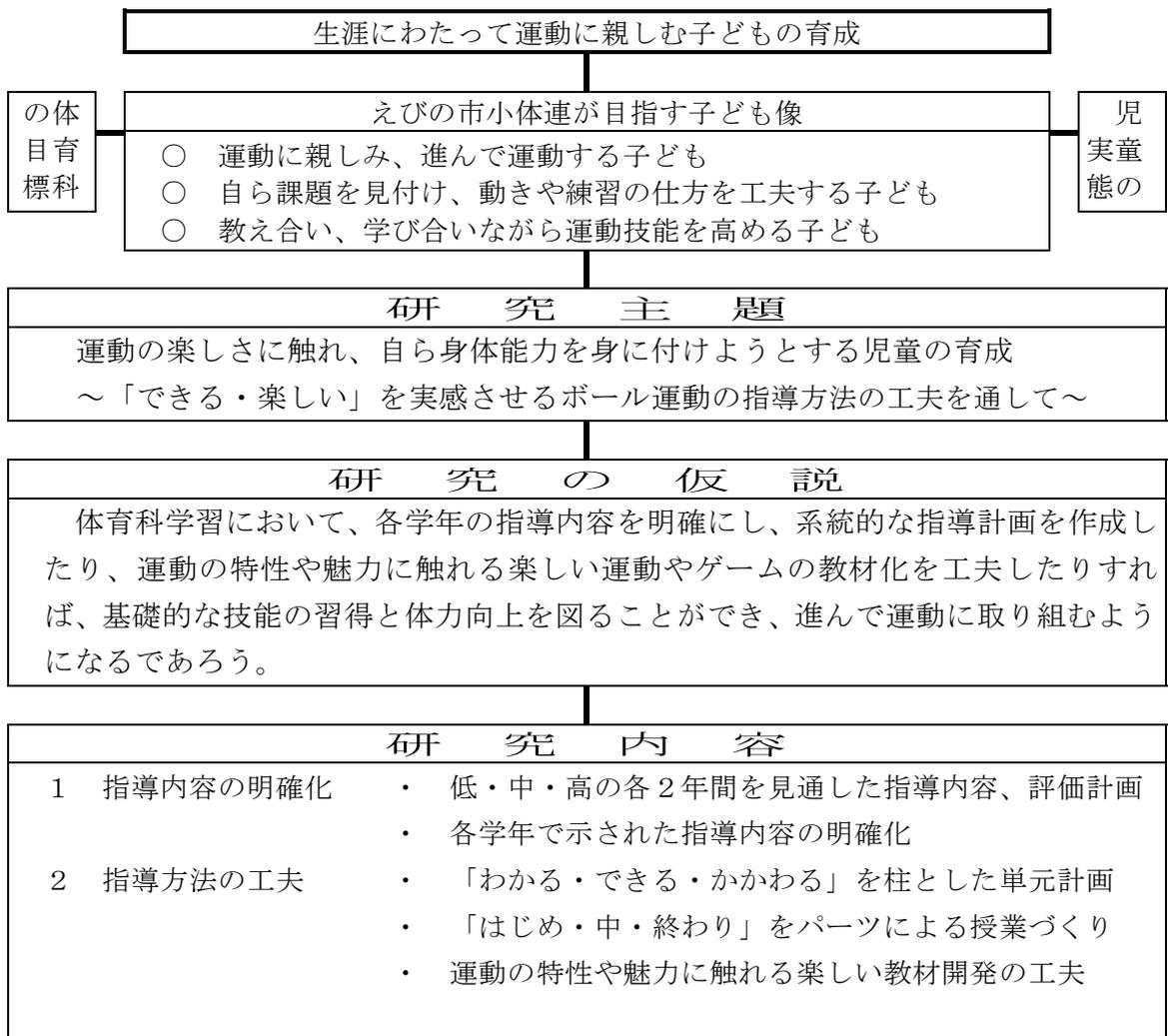
近年、児童の生活環境の変化に伴い、運動不足による体力・運動能力の低下や集団遊びの減少によるコミュニケーション能力の低下など、多くの課題を抱えている。小学校段階において、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を確実に育成するためには、運動への関心を高め、各種運動の楽しさや喜びを味わわせることが重要であり、体力の向上を図る上でも、体育科学習は重要な役割等を担っている。

えびの市の児童の実態として、スポーツ少年団に所属し、普段からスポーツに親しんでいる児童とそうでない児童との体力・運動能力の差が大きく、体育科の授業において児童が感じる達成感や満足度についても二極化がみられることが課題としてあげられる。

えびの市小体連では、これまでに準備運動や主運動につながる運動の工夫、運動の楽しさに触れる指導過程の工夫を研究してきた。

そこで本年度は、これまでの研究の成果を生かし、指導内容の明確化、ゲーム開発等を行いながら「できる・楽しい」を実感させるボール運動の指導方法の工夫を通して、本主題を追求しようと考えた。

3 研究の構想



4 研究の実際

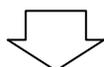
(1) 研究の方向性（えびの市小体連の考える「できる・楽しい」のキーワード）

4つの「できる」

- ① わかって「できる」
 - ・体の動かし方
 - ・ルールやゲームの進め方
 - ・運動の行い方
 - ・練習の方法 …がわかってできる
- ② かかわって「できる」
 - ・アドバイス、チームプレー、声のかけあい
 - ・協力して練習、ゲームが …がかかわってできる。
- ③ できることを実感「できる」
- ④ 楽しむことが「できる」
 - ・体の動かし方
 - ・運動の行い方
 - ・チームプレー、協力 …実感できる
 - …楽しむことができる

+

子どもの体力を高める（体育を楽しむ支え）



パーツに組み込む

- ・ 単元全体を通して
- ・ 一単位時間の授業の中で

(2) 指導内容の明確化

指導者が、当該学年で身に付けさせるべき内容を理解した上で授業を組み立てることが重要であると考え、とくに本年度は、できることを中心におくために身に付けたい力、運動のポイントを明確にした。

(例) 3年生 ボール運動（ネット型 プレールボール）

身に付けたい力	運動のポイント
○ ボールを両手または片手で打ち付ける。	・はじめは「腰の高さ」からだんだん「強く打つ」ことを目標に取り組む。
○ ボールを両手または片手で下から跳ね上げる。	・打点しやすい位置に移動し、「フワッ」と上に
○ ボールの方向に体を向ける。	あげることを意識させる。
○ ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に体を移動する。	・トスを落下させる位置や声かけが重要である。
○ 相手のいないスペースを早めに判断し、パスや返球の組み立てをする。	・ボールを持っていないときの動きや作戦に沿った声かけを大切にす。

(3) 指導方法の工夫

一単位時間の流し方のパーツをつくり、
体力を高めつつ、だれでもわかる、できる
授業づくりに取り組んだ。

① はじめ

主運動につながる運動（わかる、できる）

- ・ 関節の可動領域を広げる等
腕回しなどの投げるにかかわる運動
- ・ 体の動かし方を身につける 投げるフォーム等
- ・ 主運動につながる運動遊び タオルボール ひらひらボール等

② なか

- ・ 本時のゲームにつながる練習
(わかる) シンプルな言葉で、ポイントを明確に
(できる) 技能を高めるゲーム・練習、1人で ペアで チームで
(かかわる) 体の動かし方をアドバイス、ペアで チームで、教師から
- ・ だれでもわかる、できる楽しめるゲーム
(ステップ1) ボールの操作やボールを持たないときの動きなど基本が身に付く。
(ステップ2) ルールを簡易化したり、場を工夫したりして仲間や相手を意識する。

③ おわり

- ・ 学習のふりかえり、次時の予告

5 研究の成果と課題 (○成果 ●課題)

- 基本的な体の動かし方やボール操作をしっかりと身に付けさせることで、できる喜びを感じさせることができた。
- 基礎技能が身についたことでペアやチームでかかわりながら、技能やチーム力を高めることができた。
- 「わかる」「かかわる」「できる」の流れを意識して教師がかかわっていく必要がある。
- 各学年でどの段階まで「できる」ようになる必要があるかを把握しておく必要がある。

IV まとめ

各事業に関しては、本年度も学校職員をはじめ、会場校児童の協力も得ながら円滑に進行させることができた。とくに水泳大会、陸上大会における児童の競技する姿、応援のマナーや態度が素晴らしく、各学校での指導が行き届いていることが感じられた。

研究に関しては、3年間の体力向上に関わる指定を受けた真幸中学校区における研究内容とも関連させながら、実践的な研究を行うことができた。

単元計画、一単位時間の授業の流れ、2年間を見通した評価の在り方等のスタイルを作らなければならない。授業導入段階における「基礎感覚を高める運動」「主運動につながる運動」「児童が楽しんで取り組むゲームの開発」等を通して、児童はこれまで以上に、仲間との関わり合いや技能向上の喜びを感じながら運動に親しむようにさらに研究を進めていきたい。

次年度は、平成28年度予定の県学体研も見据え、「わかる、たのしい」とも関連付けながら「できる」を実感できる体育科授業の研究を推進していきたい。